

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語 I		(NKT13D)
講義名 (コード)	ビジネス英語 I A		(NKT13DA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To gain knowledge of business concepts and ideas, as well as common language associated with business.
全体の内容と概要	Textbook work, group and individual research and projects.
授業時間外の学修	Research and preparation of projects, presentations, and essays.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Introduction.	Introduction of class, teacher, textbook, and class expectations.
2	Can communicate background information.	Textbook Unit 1. Group introductions and discussion of backgrounds and histories.
3	Can use present simple tense.	Textbook Unit 1. Writing about current and past work experience.
4	Can communicate greetings and farewells.	Textbook Unit 1. Role play business situations using proper language and manners.
5	Can communicate company types, and activities.	Textbook Unit 2. Group discussion of industry types and future plans.
6	Can clearly communicate numbers.	Textbook Unit 2. Listening and speaking activities to practice communicating numbers.
7	Can complete business phone calls.	Textbook Unit 2. Role play business phone call situations.
8	Can communicate location and workplace.	Textbook Unit 3. Use maps and diagrams to give and follow directions.
9	Can understand and communicate addresses.	Textbook Unit 3. Use maps and diagrams to create written directions.
10	Can discuss and make group decisions.	Textbook Unit 3. Intro to business ethics, group discussion and decision making exercise.
11	Can discuss technology and functions.	Textbook Unit 4. Current event discussion of present and near future technologies.
12	Can communicate sequence.	Textbook Unit 4. Practice writing sequenced instructions for everyday tasks.
13	Final exam prep.	Final exam preparation and review.
14	Final exam.	Final exam.
15	Exam feedback.	Final exam feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	Worksheets, project materials, and group work materials.
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス英語 I	(NKT13D)
講義名 (コード)	ビジネス英語 I B	(NKT13DB)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	DavidA. Robbins	時間数 30
成績評価教員	DavidA. Robbins	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	For students to learn how to communicate in a business setting.
全体の内容と概要	Using the text as a work book, listening to lectures about business, and discussion times to further understanding.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Go over syllabus, discover English ability. First meeting communication	Orientation and introduction. English for Socialization: Chapter 4, Part 1
2	Learning to talk about personal lifestyle	Ability to talk about personal life: English for Socialization: Chapter 4, Part 5
3	Learn how to make a phone call	Learning English for the telephone: English for Socialization: Chapter 1, Part 1
4	Learn to organize your topics to discuss	Topic organization: English for Socialization: Chapter 1, Part 6
5	Learn to put together a good business letter	Writing for Business,: English for Socialization: Chapter 6, Part 1
6	Learning about write in business	Correspondence phrases for different situations: English for Socialization: Chapter 6, Part 4
7	Learning correct phrases in different situations	Writing Model Letters: English for Socialization: Chapter 6, Part 5
8	Learning good meeting habits	What makes a good meeting: English for Socialization: Chapter 3, Part 1
9	Using business meeting terms correctly	Meetings and key terms that are used: English for Socialization: Chapter 3, Part 2
10	Learning proper phrases in a discussion in a meeting	Opinions in meetings: English for Socialization: Chapter 3, Part 4
11	Understanding a good presentation	Steps for giving a good presentation: English for Socialization: Chapter 2, Part 1
12	Preparing a presentation for your listeners	Organizing a presentaton: English for Socialization: Chapter 2, Part 2
13	Understanding a successful negotiation	Negotiations: English for Socialization: Chapter 5, Part 1 and Test Review
14		Test
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Communicating in Business English, Compass Publishing
参考文献・資料等	N/A
備考	N/A

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語 I		(NKT13D)
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅢC		(NKT22IC)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、特にスピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力の向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズを復習し、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	初対面の同僚に自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
2	ビジネスミーティングで自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
3	ゲストを同僚に紹介することができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
4	1～3回【挨拶】の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	留守電にメッセージを残すことができるようになる	留守電にメッセージを残す方法を練習する。
6	電話で伝言を残すことができるようになる	電話で伝言を残す方法を練習する。
7	同僚に伝言を伝えることができるようになる	同僚に伝言を伝える方法を練習する。様々な場面を想定して適する時制を使えるようにする。
8	5～7回【電話】の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	空港でチェックインできるようになる	空港でチェックインする方法を練習する。
10	入国審査や税関を通過できるようになる	入国審査や税関を通過する場面を練習する。
11	10～11回【海外出張編】の復習	様々な場面を想定して練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Business as Usual
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス翻訳 I		(NKT23E)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳 I A		(NKT23EA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスで使われるメール・インフォメーション等を正確に理解し翻訳できるようにする。簡単なメールを英語で書けるようにする。
全体の内容と概要	TOEICのパート6・7の問題に取り組みながら、本文を日本語に書き換えてみる。英語でメールを書くために必要な語彙、形式を紹介する
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	従業員に宛てたお知らせの文章・送り状を理解できる	お知らせの文を翻訳する。Invoiceの見方・書き方を学ぶ
2	ホテルのウェブページ・レビューが理解できる	レビューのサマリーを日本語で書いてみる
3	電話のメッセージの読み方・書き方を理解できる	メッセージの書き方を学び、実際にメモをとってみる
4	カメラのレビューのweb ページを翻訳できる	それぞれのカメラの評価をまとめて書いてみる
5	割引広告・メールサーバー停止のお知らせを翻訳できる	日本語に翻訳してみる
6	meetingのアジェンダの読み方を理解し、作成できる	meetingのagendaを作り、staffにそれを知らせるメールを作成する
7	従業員に向けたstrategic plan e-mailが翻訳できる	e-mailを翻訳する。
8	車のディーラーからのお知らせとアンケートが理解できる	お知らせの書き方、アンケートの作り方を学ぶ
9	人事部からの職位に関するレターを翻訳できる	日本語に翻訳する
10	ツアーのitineraryを英語で作成できる	簡単なツアー日程を英語で書いてみる
11	会議の議事録を翻訳できる	会議の議事録を翻訳してみる
12	オフィススペースのレンタル広告を理解し、返信できる	オフィスのレンタル広告をみてそれに対する返信を書いてみる
13	まとめ	復習・テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	公式TOEIC Listening & Reading
参考文献・資料等	ビジネスで1番よく使う英語Eメール
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス翻訳 I		(NKT23E)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳 I B		(NKT23EB)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスメールなどの翻訳ができるようになる。
全体の内容と概要	相手や場面に応じた言葉 (フォーマル、カジュアル、セミフォーマル) の使い分けができるように語彙力と表現力を身につける。
授業時間外の学修	Unitごと習うビジネス特有の表現・語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	短い文を瞬間英訳できるようになる	瞬間英訳トレーニングを行いペアワークで練習する。
2	定型表現を瞬間英訳できるようになる	定型表現を学び瞬間英訳トレーニングを行う。
3	ビジネスメールの構造・書き方を理解できるようになる	メールの書き方を学ぶ。
4	【Unit1】 新入社員によるメールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
5	【Unit2】 企業紹介メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
6	【Unit3】 仕事の役割メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
7	【Unit4】 商品の紹介メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
8	【Unit5】 情報の確認ができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
9	【Unit6】 意見を述べることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
10	【Unit7】 依頼をすることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
11	【Unit8】 許可を得ることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Go Global
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解 I		(NKT13J)
講義名 (コード)	異文化理解 I D		(NKT13JD)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティーを尊重し、国際理解を深める。
全体の内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、発表などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	各自白い紙に絵や文字で自分を紹介するポスターを作成、自己紹介
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶ事ができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定観念について理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる。	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめ
14	まとめと解説	期末テスト発表
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	「異文化理解入門」、その他
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	英語資格対策 I		(NKT13F)
講義名 (コード)	英語資格対策 I A		(NKT13FA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	文法を理解し、語彙・熟語・長文・listening・作文の練習問題に取り組む
授業時間外の学修	英単語・熟語を覚える
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	時制・態を理解できる	現在・完了形・進行形・受動態を理解し練習問題をする
2	助動詞の働きを理解できる	will/shall/can/may/must/would/shouldの基本的用法を学ぶ
3	2級・準1級の問題に挑戦し弱点を理解できる	2級の過去問題集から長文を解き自分の弱点を知る
4	長文の読み方・出題傾向を理解できる	英検長文の特徴を知り時間内に読む練習をする
5	不定詞・動名詞・分詞を理解できる	不定詞と動名詞の働きを学び慣用表現を覚える
6	listeningに慣れる	英検listeningの特徴を知り問題に取り組む
7	英検2級・準1級の単語・熟語を覚える	各級のよく出る単語・熟語を学び過去問題集の穴埋め問題をする
8	2級・準1級の問題に挑戦し達成度を判断できる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える
9	関係代名詞を理解できる	関係代名詞の使い方を学び、それに関連する問題を解く
10	作文を書ける 1	文章を書く際の構成を学ぶ
11	作文を書ける 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる
12	2級・準1級の問題に挑戦し、自分の弱点を見つけられる	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う
13	期末テスト対策	期末テストに向けた復習
14	テスト	
15	テストFB	テストのまとめと解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検2級過去問題集・英検準1級集中ゼミ
参考文献・資料等	英検2級総合対策教本・英検準1級過去問題集
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	英語資格対策 I		(NKT13F)
講義名 (コード)	英語資格対策 I B		(NKT13FB)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検3級以上に合格する。
全体の内容と概要	3級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語1～50 / 時制・態が理解できるようになる	自動詞・他動詞・完了形・進行形・受動態の確認と練習問題を解く。
2	単語51～100 / 助動詞の働きが理解できるようになる	will/shall/can/ may/must/ would/ shouldの基本的用法を学びながら問題を解く。
3	単語101～150 3級の過去問題に挑戦する	3級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
4	単語 151～200 / 長文の読み方や出題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
5	単語201～250 / 不定詞・動名詞・分詞が理解できるようになる	不定詞と動名詞の働きを学び、慣用表現を覚える。
6	単語 251～300 / 英検のlisteningに慣れることができるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
7	単語301～350 / 3級の単語・熟語がわかるようになる	各級のよく出る単語・熟語を学び、過去の穴埋め問題を解く。
8	単語351～400 3級の過去問題に挑戦する	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	単語401～450 / 関係代名詞が理解できるようになる	関係代名詞の使い方を学び、それに関する問題を解いてみる。
10	単語451～500 / 作文の書き方が理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
11	単語501～550 / 作文の書き方が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
12	単語551～600 3級の過去問題に挑戦する	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検3級過去6回全問題集、英検3級でる順パス単
参考文献・資料等	Evergreen、英検3級総合対策教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	芸術表現 I		(NCR13I)
講義名 (コード)	芸術表現 I		(NCR13IX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	身近な素材やテーマから、自分なりに発想し工夫して「生活の中の芸術」を生み出す力を育む。身の回りにある「芸術」に気が付き、生活を豊かにする感性を身につける。
全体の内容と概要	ワークショップ型の作品づくり。グループワークもあり。自分の作品を発表したり、自分以外の作品を鑑賞し、感想を述べるなど、クリエイティブなコミュニケーションを展開する。
授業時間外の学修	あり (状況による)
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	絵や工作が得意か否か、上手いか否かにかかわらず、工夫して前向きに表現しようとする姿勢を重視する。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	色彩感覚を豊かに、折り方や染め方などを工夫できる。	カラフル折り染め体験
2	「余白」を意識した構図を考え、対照をよく観察することができる。	自分の「手」をデッサンする①
3	「余白」を意識した構図を考え、対照をよく観察することができる。	自分の「手」をデッサンする②
4	雑多な素材の組み合わせから、思いもよらない自分を発見できる。	新聞・広告・雑誌などを使った「コラージュ」①
5	雑多な素材の組み合わせから、思いもよらない自分を発見できる。	新聞・広告・雑誌などを使った「コラージュ」②
6	限られた色（モノクロ）の世界を、自分なりに表現できる。	ボールペン1本使い切ろう（黒画用紙に白ボールペンで自由に表現する）
7	原始的な腫瘍を用いて、「絵が動く」体験ができる。	アニメーションの原型「ムービーモーション」を体験しよう①
8	原始的な腫瘍を用いて、「絵が動く」体験ができる。	アニメーションの原型「ムービーモーション」を体験しよう②
9	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分を表す「シンボルマーク」を考えよう①
10	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分を表す「シンボルマーク」を考えよう②
11	グループワークから刺激を受け、想像力を高めることができる。	逆から発想する絵画「○○じゃない○○」
12	テーマを意識して写真を撮ることで、表現の幅を広げることができる。	街に出て写真を撮ろう。～初夏の風景～
13	段階的に根気よく前向きに作品を仕上げることができる。	ステンシルプリント体験① 絵柄や構図を考える
14	段階的に根気よく前向きに作品を仕上げることができる。	ステンシルプリント体験② 下絵を切り絵にする
15	段階的に根気よく前向きに作品を仕上げることができる。	ステンシルプリント体験③ 切り絵を型にして彩色する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	中国語初級 I	(NCR220)	
講義名 (コード)	中国語初級 I	(NCR220X)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日常生活やビジネスにおいて中国人と比較的流暢にコミュニケーションが取れる
全体的内容と概要	中国語のテレビや映画の鑑賞を授業に取り入れる
授業時間外の学修	校内の中国人留学生との交流を深める
履修上の注意事項等	四声の発音の仕方

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track1】～【Track3】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
2	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track4】～【Track6】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
3	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track7】～【Track9】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
4	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track10】～【Track12】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
5	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track11】～【Track15】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
6	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track16】～【Track18】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
7	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track19】～【Track21】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
8	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track22】～【Track24】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
9	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track25】～【Track27】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
10	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track28】～【Track30】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
11	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track31】～【Track33】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
12	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track34】～【Track36】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
13	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track37】～【Track36】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
14	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる
15	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	中国語電話マスター
参考文献・資料等	ビジネス会話
備考	当講座では、使用教材での学習に加え講師との会話練習も多く実施する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	通訳入門 I		(NCR13C)
講義名 (コード)	通訳入門 I		(NCR13CX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通訳の基礎を学ぶ。通訳演習を通して、英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる。
全体の内容と概要	リテンション、サマライズ、ノートテイキングなど、通訳に必要なスキルを学ぶ。例文を何度も発話することで「使える」表現として定着させ、クイックレスポンスができるよう訓練する、
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティングなど、自習できるものは普段から実践する。 既習内容を復習し、定着させる。
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	通訳の種類・手法を理解できる	授業内容の紹介。通訳の種類や通訳手法などの紹介。 平易な例文を用いてリテンション（短期記憶）を体験してみる。
2	サマライズできる	聞いて理解した内容を、要点をまとめて話す練習をする。
3	シャドーイングの理論を理解できる	シャドーイングとは何か、通訳練習における利点を学び、短い例文を用いて実践する。
4	リプロダクションを理解できる	聞こえた英文を記憶し、自分で発声して英文を「再現する」トレーニングを行う。
5	サイトトランスレーションのやり方を理解できる	チャンクごとに区切り、前から訳すトレーニングを行う。
6	ノート・テイキングを実際に体験する	聞いて理解した内容を、ターゲット言語で再現することを考えながら簡潔にメモを取るスキルを学ぶ。
7	聞いた内容を理解し、日本語に訳せる(E→J Comprehension)	聞いた英語を理解し、その内容を漏れなく正確に日本語で説明する練習をする。
8	日本語でメモを取れる(E→J Note-taking)	聞いて理解した内容を、日本語で再現することを考えながら簡潔に記録する訓練をする。
9	日本語に訳せる(E→J Delivery)	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
10	聞いた内容を理解し、英語に訳せる(J→E Comprehension)	聞いた内容を正確に理解し、英語で再現できるよう、サマライズする練習をする。
11	英語でメモを取れる(J→E Note-taking)	聞いた内容を正確に理解し、要点を英語でメモする練習をする。
12	英語に訳せる(J→E Delivery)	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
13	まとめ・復習	前期履修内容のまとめ、復習
14	テスト	前期テスト
15	FB	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	話すための瞬間英作文トレーニング・音読パッケージトレーニング
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I		(NKT14D)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション I A		(NKT14DA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解した上で、場面に応じて文法、語彙を使い分けコミュニケーションを図ることができるようになる
全体的内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	疑問詞を見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：情報の整理
2	疑問の答えを見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：敬語
3	主張表現を見つけることができる	読解：主張表現 聴解話者の心情を考える
4	筆者が何を評価しているのか読み取ることができる	読解：主張表現 聴解：漢語
5	指示語を見つけることができる	読解：指示語 聴解：予測
6	JLPT形式の問題を解くことができる	JLPT模試 JLPT模試
7	JLPT形式の問題を解くことができる	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語資格対策 I		(NKT14F)
講義名 (コード)	日本語資格対策 I A		(NKT14FA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体的内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやり取りができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 1	文法： ～つ～つ、～ともなく、～べく 語彙：第5、6回
2	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 2	文法：～てからというもの、～ながらに、～たままでのことだ 語彙：第6、7回
3	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 3	文法：～をものともせず、～かたわら、check 語彙：第8、9回
4	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できるようになる 1	文法：～めく・～めいた、～やいなや、～ごとき 語彙：第10、11回
5	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できるようになる 2	文法：～かと思いきや、～んがため、～のごとく 語彙：第12、13回
6	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できるようになる 3	文法：～にして、～だに、～かねて 語彙：第14、15回
7	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できるようになる 4	文法：～を限りに、check、まとめの問題 語彙：第16、17回
8	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 1	文法：～からいる、～にかかわる、にあつて 語彙：第18、19回
9	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 2	文法：～ようによっては、check、まとめの問題 語彙：第20、21回
10	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 1	文法：～べからず、(ただ)～のみ、がゆえ、～と相まって 語彙：第22、23回
11	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 2	文法：～にかたくない、～としてあるまじき、～ずにはすまなかつた 語彙：第24、25回
12	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 3	文法：～でなくてなんだろう、～極まりない、～を禁じえない 語彙：第26、27回
13	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 4	文法：～にたる、～べくもない、～なくして 語彙：第28、29回
14	まとめと解説	試験
15	まとめと解説	試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	文法：TRY日本語能力試験N1 語彙：日本語パワードリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	